

平成25年度
九州食料・農業・農村情勢報告の概要

平成26年6月
九州農政局

平成25年度情勢報告の構成

○トピックス編

- ◆九州における重要な取組 8テーマ

○特集編

- ◆生産拡大に資する6次産業化の動き
 - 第1章 これまでの6次産業化の動き
 - 第2章 6次産業化の課題と方向性
 - 第3章 輸出促進の課題と方向性

○動向編

- 第1章 九州農業の主要指標の動き
- 第2章 食料自給率向上と食の安全の確保に向けた取組
- 第3章 農業の持続的発展に向けて
- 第4章 地域資源を活かした農村の振興・活性化

○巻末資料

- ◆農林水産祭表彰行事の農林水産大臣賞受賞者一覧
- ◆参考付表
- ◆巻末付録 九州農業の50年

○トピックス編

九州における重要な取組 8テーマ

- 1 阿蘇地域及び国東半島宇佐地域が世界遺産に認定
- 2 新品種・新技術の開発、保護、普及に関する動き
- 3 効率的・効果的な病虫害防除に向けた取組
- 4 農業分野における障がい者就労支援の取組
- 5 国営施設機能保全事業「笠野原地区」に着手
- 6 管内における、うまい米づくり
- 7 九州から2部門で天皇杯（農林水産祭）
- 8 今般の施策の見直し（4つの改革への取り組み）

1 阿蘇地域及び国東半島宇佐地域が 世界農業遺産に認定

本文P3~4

○ 25年5月世界農業遺産国際会議が開催（石川県七尾市）され、管内から阿蘇地域（熊本県）及び国東半島宇佐地域（大分県）が新たに認定。

◆世界最大級のカルデラ周辺に千年以上続く野焼き・放牧等により、半自然草原を維持する阿蘇地域。

◆クヌギ林の伐採・再生による水源涵養とため池群を維持する循環型農業の国東半島宇佐地域。



在来品種である
“あか牛”



美しい草原景観



クヌギ原木を使った
しいたけ栽培



クヌギ林に涵養された“ため池”

2 新品種・新技術の開発、 保護、普及に関する動き

本文P5~6

- 「攻めの農林水産業の展開」を推進するため、「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」を策定。
- 技術力を生かした新たな品種や技術の開発・普及。
- 品質やブランド化など「強み」のある農畜産物を創出。

◆ちゃんぽん麺用小麦「長崎W2号」の開発・育成（長崎県）

◆農産物の「強み」を生み出す品種育成を推進

◆九州向けに育成された黒大豆「クロダマル」の産地化（大分県）

◆でん粉原料用かんしょ「こなみすき」の特性を生かした商品開発、消費拡大等（鹿児島県）

◆地元産の飼料用米を与えた、こだわり牛肉「えこめ牛」を生産（熊本県）

研究区分	研究課題名
育種対応型	暖地での周年ガラス体系向きソルガムおよびイタリアンライグラスの耐病性品種の育成 「(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター」
育種対応型	加工適性や病虫害抵抗性に優れる原料用・加工用カンショ品種の開発 「(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター」
育種対応型	ビワ供給拡大のための早生・耐病性ビワ新品種の開発および生育予測システムの構築 「長崎県農林技術開発センター」
育種対応型	安全安心な国産農産物安定供給のためのピーマン育種プロジェクト 「宮崎県総合農業試験場」
育種対応型	生産環境の変化に対応した生産性の高いサトウキビ品種の育成 「沖縄県農業研究センター」

3 効率的・効果的な 病害虫防除に向けた取組

本文P8~10

- 25年産水稲でトビイロウンカが発生し、その対応を検討。
- 管内各地で総合的病害虫・雑草管理の取組が進展。

【トビイロウンカの発生とその対応】

◆九州北部の水田地帯を中心に多くの地域でトビイロウンカによる被害が発生し、水稲の作柄に大きく影響。

◆関係機関と連携し、被害の発生防止・軽減のための地域における適切な防除対策を取りまとめ。

- (ア)発生予察情報の精度向上と早期提供
- (イ)発生予察情報に基づく防除指導の徹底
- (ウ)防除実施体制の構築



トビイロウンカによる水稲の被害発生状況 「福岡県糸島市」

【総合的病害虫・雑草管理の取組】



黄色防蛾灯の夜間点灯

◆黄色防蛾灯による蛾の侵入抑制や防草シートによる雑草の発生抑制。
(長崎県壱岐市)

◆消費者に理解を深めてもらうため「IPMフォーラムin 大分」を開催。
(大分県)



大葉栽培施設の見学

かごしま天敵大作戦



「かごしまのIPM」PRキャラクター「チーム・マモット」
資料：鹿児島県

◆県産農産物のイメージアップのため、PRキャラクター「チーム・マモット」を活用した活動を展開。
(鹿児島県)

4 農業分野における 障がい者就労支援の取組

本文P11~12

- 福祉施設での農作業訓練の取組や農業法人等における就労形態の多様化による労働力の確保といった最近の情勢を捉え、農と福祉の両サイドの動きを結びつける取組を推進。

【農政局独自の取組】

◆農業分野での障がい者の就労をめぐる状況を把握するため、現地調査の実施及び意見交換会の開催。

◆農業と福祉の発展に寄与することを目的に障がい者就労セミナーを開催。

◆ホームページに農業分野での障がい者就労・雇用促進ネットワークへの案内窓口を開設。



除草作業



しいたけの選別作業

5 国営施設機能保全事業

本文P13~14

「笠野原地区」に着手

- 全国初の国営畑地かんがい事業を実施した、鹿児島県「笠野原地区」が、九州管内第1号の「国営施設機能保全事業」の対象地区として事業着手。

◆国営施設機能保全事業とは

全面的な更新整備ではなく、部分的に性能低下が見られる範囲の予防保全対策を行うことで、施設の長寿命化と維持管理コストの低減など、農家等に有利となる施設の保全管理（ストックマネジメント）を推進する事業。



ひび割れ・剥離（導水路）



樹脂注入による止水の例

◆笠野原地区の現状

笠野原地区は、畑地かんがい事業完了後40余年が経過し、施設の劣化等が進行し、施設の維持管理や農業用水の安定供給に支障を来す状態になっており、今後も耐用年数を超過する施設が増加。



管破損による漏水（幹線水路）



布設替えによる更新の例

6 管内における、うまい米づくり

本文P15

- 25年産米の食味ランキングでは九州地域から、8銘柄が最高評価の「特A」に。うち「高温耐性品種」が4銘柄ランクイン。

◆近年、九州地域では、登熟期の高温により玄米が乳白化する「白未熟粒」や充実不足が多く発生する障害により、1等米比率の水準が著しく低くなっている。

この高温障害対策の一環として、独立行政法人や各県の試験研究機関において、食味に優れ高温に強い新品種が開発され、その導入が進んでおり、今後のブランド確立に期待。

◆平成25年産米の食味ランキングにおいて、特Aの評価を受けた高温耐性品種。

◇福岡県の「元気つくし」(3年連続)

◇佐賀県の「さがびより」(4年連続)

◇熊本県の「くまさんの力」(2年連続)

◇鹿児島県の「あきほなみ」

7 九州から2部門で天皇杯（農林水産祭）

本文P16~17

- 平成25年度の農林水産祭で、九州管内から「畜産部門」及び「むらづくり部門」において、天皇杯受賞者が誕生。

熊本県山鹿市「谷 秀則・珠美」夫妻

【畜産部門】

◇酪農経営における飼養管理の効率化と高能力牛群の確保など、基本に忠実な骨太経営が、飼料高騰時代における、耕畜連携・共存共栄を達成する優良モデルになる普及性の高い事例として評価。



天皇杯を受賞された「谷 秀則・珠美」夫妻



透明な水を湛える陣の池の小池(湧水池)

宮崎県えびの市「田代自治会」

【むらづくり部門】

◇村の宝である湧水池「陣の池」の保全や伝統文化の継承等、守るべき価値観を共有、集落内の老若男女を問わず、同じ距離感で地域を活性化させる活動が高く評価。

8 今般の施策の見直し（4つの改革への取組）

本文P18

～地域一体となって「強い農林水産業」の創造を～

- 昨年末の「農林水産業・地域の活力創造プラン」において、農地中間管理機構や日本型直接支払制度など、生産現場に密接に関連する施策を見直し。
- 農政局ではこれら今般の施策の見直しについて、管内各県・市町村等への説明を精力的に実施。

◆農林水産省では、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、産業政策と地域政策を車の両輪として推進。

産業政策とは、農業を足腰の強い産業としていくための政策。

地域政策とは、国土保全といった多面的機能を発揮するための政策。

◆九州農政局では、次の「4つの改革」について、九州・沖縄ブロック説明会を皮切りに、県別説明会等を開催。

- ①農地中間管理機構の創設
- ②経営所得安定対策の見直し
- ③水田フル活用と米政策の見直し
- ④日本型直接支払制度

メ モ